

ませんでした。

市長 先生は児童がどこまで理解しているか大体把握していたのでしょうか。

篠原 私の学年は6人しかいませんでした。下の学年が4人で上の学年が8人。複式学級で一番多いときは14人のクラスでしたが、人を測るのがほとんどなく相撲が強いとか、足が速いとか、釣りが上手いとか、虫に詳しいとか、それぞれの得意分野が多岐にわたり勉強もその中の1つという感覚でした。人に対する評価基準というものが多様で競い合うことがなかったように思います。

市長 津市では小規模校が増えてきています。そういったところは、今後子どもたちの教育に関する大きなポイントかもしれませんね。中学校は美杉中に進まれましたね。

篠原 7つの小学校から1つの中学校に生徒が集まりました。

市長 世界が一気に広がりましたね。

篠原 当時の美杉村では、川上が一番の田舎だと言われていました。美杉中に進んだ時に田舎者だと言われたのですが、美杉村の中で田舎者ということ自体「田舎オブ田舎」だと考えるとちょっと面白かったですね。

市長 美杉の「都会の子」は自分とは違いましたか。

篠原 いや、同じでしたね(笑)。でも、友達が一気に増え面白くなりました。それまでは、サッカーをしても5人对5人とか、野球をしてもワンベースか多くて1・3塁しかありませんでした。人数が増えると団体スポーツができるので楽しかったですね。

市長 さらに美杉中から旧津市内の津高校に進学されて、世界がどんどん広がります。

篠原 井の中の蛙ではつまらないと常々思っていました。私には、2人の兄がおりますが2人とも高校進学と同時に下宿しました。私の場合も一人暮らしでしたが、CDレンタルショップなど美杉にないものが全部あり、とても新鮮でした。生活費で自分の暮らしをマネジメントできるということがすごくうれしかった。それまではお小遣い制ではなくて欲しい時に買ってもらっていたのですが、欲しいものも釣り糸ぐらいしか選択肢がありませんでした。初めて自由にできるお金の使い道をあれこれ考えるのはす



ごく楽しかったですね。友達にも大変恵まれました。

市長 これまでお話を伺っているとどんどん篠原さんの世界が広がり、ご自身の世界を築いてこられたようです。作ろうとして作ったというよりも結果としてそうなった感じですね。

CMが予想以上の反響 その経験をこれからも

篠原 気付けばそうになっていたという感じです。

市長 今45歳とお若くていらっしゃるようですが、これからの目標などをお聞かせください。

篠原 auのCMのおかげで私の仕事である広告を作ることから飛び出したような結果が出るということを経験させていただきました。例えばCM中に流れる「やってみよう」という曲の作詞をしたところ子どもたちから文化祭で使いましたとか、勇気づけられて歌っていますとか、自分が思っていた広告効果とは違った形のうれしい反響をたくさんいただきました。こういった体験が一つでも多くできるようなものを作りたいですね。もう一つは、小説です。小説家という職業にすごく憧れがありまして、自分も何か小説のようなものを書いてみたいと思っています。

市長 夢が広がりますね。明るい夢を届ける篠原さんのCMは、これからの人口減少社会においてとても価値あることではないでしょうか。ぜひ今後も精力的な創作活動を期待しております。